

健康科学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部健康科学科は、生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（健康科学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 社会人として高いモラルと教養を有し、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて健康科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。
- (2) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関する知識や技能を活用し実践的に役立てることができる。

2. 他者との協同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関する基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を活用し、協同して社会的課題を解決できる。
- (2) 今日の健康科学上の様々な課題に対して、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関連する手法を用いて考察することができる。
- (3) 批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に表現することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 健康科学に関する課題や社会動向に常に関心を持ち、主体的・継続的に学修することができる。
- (2) 健康科学の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 幅広い教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解することが出来る。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。そして、本学の教育理念に基づき、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野のスペシャリストを育成する。

1. 教育内容

- (1) 基礎教育科目・語学では、必修科目の基礎生物学A、基礎化学A、フレッシュマンセミナーA/B、健康科学概論などのリメディアル科目において、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学び、生命倫理学、英語A/B、情報科学を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、情報収集力の獲得

と社会性を習得させる。

- (2) 専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学、生化学実習、解剖生理学 A、予防医学概論、公衆衛生学などの必修科目での講義・実習・演習の履修を通して、健康科学の基礎能力を育成する。
- (3) 全学共通科目では、多様な学問分野を履修することで幅広い教養を備えた人間性を養う。
- (4) 臨床検査コースでは、生化学検査学 A/B、生理検査学 A/B/C、病理検査学実習、臨地実習など臨床検査技師国家試験受験資格を取得するのに必須な教科目を含め履修することで、臨床検査に係る学問領域を総合的に学び、専門職種としての知識及び技術を教授する。
- (5) 健康マネジメントコースでは、栄養学（基礎と応用）、食品科学、健康体力づくりの理論、スポーツ生理学、健康体力科学論などの専門科目を通じて、食品・栄養・運動が持つ健康への影響について総合的な知識と理解を養い、食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者、トレーニング指導者をはじめとした国民の健康づくりに貢献する人材を育成する。
- (6) 理科コースでは、自然科学の基本となる物理・化学・生物・地学の基礎知識を習得し、生化学、生態学、有機化学などの学びから科学系専門職に必要な知識を養うとともに、教科教育法や教職実践演習などを通して、理科教員免許の取得と、教員に求められる力の育成を行う。

※ 取得可能資格及び免許：臨床検査技師国家試験受験資格、食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者、第二種作業環境測定士、中学校教諭一種免許（理科）、高等学校教諭一種免許（理科）。

2. 教育方法

- (1) 1 年次においては、全員が基礎教育科目・語学、健康科学の基礎的内容を中心に学び、2 年次より各学生の希望進路に沿ったコース選択を行い、専門的知識を修得させる。
- (2) 主体的な学びを促進するために、専門科目における各種の演習授業・実習授業を通して問題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。
- (3) 3 年次、4 年次においては、少人数制による卒業研究演習、卒業研究の履修を積極的に促進し、インタラクティブな教育を実施する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、健康科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測るものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、各学年学期でコモンルーブリックを活用した個別指導と評価を行う。また、卒業研究履修者においては、作成された卒業論文も評価の対象に含める。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康科学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学後の就学に必要な基礎学力を十分有している。
- (2) 現代社会の様々な健康問題に対する興味を持っている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
- (2) 課題に対して多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学分野を含む健康科学に強い関心を有している。
- (2) 健康科学に対して自ら学び発展しようとする高い勉学意欲を持ち、継続的な努力ができる。
- (3) 豊かな人間性を持って多様性を受容し、他者と積極的に対話することができる。

健康科学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験			
	英語民間試験スコア	●		
一般選抜 (英語民間試験活用総合評価型)	英語民間試験スコア	●		
	課題論文	●	●	●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書 等	●		
	基礎学力テスト	●		
	小論文	●	●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●